

鉄西連合町内会

CASE.05

Town planning
in North

鉄西地区は北区で最も小さな連合町内会。かつては駅裏と呼ばれ、北大生が暮らすアパートや一戸建て住宅、小さな商店、旧鉄の施設も残っていましたが、1990年前後から分譲や賃貸マンションが次々と建ち始め、まちの様子は一変。鉄西連合町内会は現在、人口約8000人余りに対し、98%がマンション人口で占められる「都心型町内会」となりました。マンションの多い地域では町内会の存在意義も薄れつつあります。その一方で、マンションの高齢化が進み、ニーズが高まっているのが福祉です。マンションをいかに地域の福祉活動の中に取り込むか。鉄西連合町内会では、5年前にマンションの管理・運営における悩みの解決を促し、地域に目を向けてもらうための「マンション部」、広報紙発行を通して町内会を身近に感じてもらうことを目指す「広報部」を2年前に設立。都心型町内会としての在り方を考え、取り組んでいます。

私が思う、
北区の魅力・好きな場所

北区、なかでも北大キャンパスがあるJR札幌駅の北側は都市と自然が共存していて、札幌市を凝縮したような街並みが魅力です。北海道新幹線の札幌延伸に伴い、大型改修工事が進められていて、交通手段も商業施設も豊富。駅周辺は道行く人も若者が多く、活気があり、散歩をしていても楽しめます。

鉄西8・3町内会会長
鉄西連合町内会副会長
石田 悅郎さん

鉄西歴16年。民生委員・児童委員の仕事も引き受けている、地域の実情を知るにつれ福祉活動の重要性を日々痛感している。

「マンションが多い都心の町内会と、一戸建住宅の多い郊外の町内会とは、組織の在り方を分けて考えるべきだと思っています」と話すのは石田悦郎さん。2007年にJR札幌駅北口のマンションに移り住み、鉄西連合町内会や鉄西地区福まつ推進部のほか多数の仕事を担っています。団地とマンションの管理組合理事長、公益社団法人のマンション団体広報責任者も務めていて、忙しさはありますが、「マンションの増加に伴い、ごみの搬入や運搬などの課題が問題かを俯瞰して見ることができます」と言います。

「行政サービスの充実とともにマンションの増加に伴い、ごみの搬入や運搬などの課題が問題かを俯瞰して見ることができます。一方で、居住者の高齢化に伴い、徘徊や孤

立死などの課題が急速に増えています。都心型町内会は不要となつた組織を見直し、福祉の見守りや防災などもっと目を向けるべきだとモット曰を向けるべきだと考えます」と石田さんは話します。見守りの網の目をもつと細かく、住民により近づいていく。「この50年の最大の変化は分譲マンションの急増です。孤立化したがちなマンション住民を地域のコミュニティにいかに取り込んでいくか、私たちの組織も見直す必要があります」。

鉄西連合町内会
北区北10条西4丁目1-12
TEL.011-726-5285
(鉄西まちづくりセンター内)



鉄西連合町内会の広報部から毎年4回発行している「てっせい」をはじめ、様々な紙媒体を手掛ける石田さん。前職は新聞記者